

2021,11,3 栃の木峠・河内山・庄野峰越トレッキング記録

良いお天気。中河内集落の登山口から登りました。「紅葉は、今が丁度見ごろやね・・・」「綺麗なブナ原生林・・・」などワイワイガヤガヤ会話も弾みました。時々、ユキツバキのお花が咲いていて、「かわいいね・・・」など心なごみました。河内山山頂を過ぎて、鉄塔でお昼ご飯をいただきました。敦賀湾方面の景色が綺麗で、時々楽しみながら山歩を楽しみました。今日も自然に感謝。出会いに感謝の一日でした。

◆トレッキングの様子



←熊の爪痕



←河内山山頂



↑ユキツバキの花



オオウラジロノキの実↓



◆歴史 今庄から次の宿場、木之本へは栃ノ木峠を越えて行くのが本来のルートである。旧東海道や旧中山道は、江戸幕府が制定した五街道であり、幕府によりしっかり管理されていたが、「北陸道」は、幕府ではなく、加賀藩や福井藩など通過する藩が管理する脇往還と呼ばれる主要道として位置づけられていた。

古代から「北陸道」は存在したが、当時は道路である前に、行政単位としての地域、すなわち「国」を示していた。律令制末期には、佐渡、越後、越中、能登、加賀、越前、若狭の7ヶ国を指した。そして、その地域を貫く主要道としての道路にも「北陸道」という名称が使われていた。下って、中世、室町時代後期ごろの、府中（武生）から近江に向かう道は、今庄から木ノ芽峠を越えて敦賀に至るルートであった。しかし、近世になって、織田信長のもとに駆けつける際の距離を短縮するために、柴田勝家によって栃ノ木峠を越えるルートが開発された。以後、この栃ノ木峠越えが幹線道路になった。

